

1. 地震活動に関する資料

4 頁 2006 年 6 月の活動

想定震源域及びその周辺で発生した M 3.0 の地震は、

10 日 駿河湾	深さ 24km M3.1
16 日 伊豆半島東方沖	深さ 7km M3.0
21 日 新島・神津島近海	深さ 13km M3.0
29 日 静岡県西部	深さ 20km M3.2
30 日 静岡県西部	深さ 20km M3.1

南関東における M 3.5 の地震は、

9 日 千葉県東方沖	深さ 48km M4.2
9 日 茨城県沖	深さ 47km M4.0
9 日 鹿島灘	深さ 53km M3.6
14 日 茨城県南部	深さ 45km M3.6
15 日 茨城県北部	深さ 55km M3.8
17 日 茨城県沖	深さ 47km M3.8
20 日 千葉県北西部	深さ 66km M4.6
27 日 千葉県北西部	深さ 69km M4.0
29 日 千葉県北西部	深さ 67km M3.7

その他の地域で目立った地震は、

3 日 福井県嶺南地方	深さ 7km M4.1
16 日 房総半島南東沖	深さ 55km M4.6
16 日 房総半島南東沖	深さ 54km M4.6
24 日 紀伊半島沖	深さ 28km M4.0

6 月 6 日から伊豆大島近海で小規模な地震活動が始まったが、6 月半ばには落ち着いた。

6 月 18 日に静岡県中部の深さ 25km で M2.7 の地震が発生した。フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で発生したと考えられる。また、6 月 29 日に静岡県西部の深さ 31km で M2.6 の地震が発生した。フィリピン海プレート内で発生したと考えられる。

2004 年 9 月 5 日の東海道沖の地震 (M7.4) の M4 以上の余震は発生しなかった。

5 頁 2006 年 7 月の活動 (1 日～27 日)

想定震源域及びその周辺で発生した M 3.0 の地震は、

9 日 新島・神津島近海	深さ 11km M4.8
--------------	--------------

9 日 新島・神津島近海	深さ 6km M3.0
16 日 愛知県西部	深さ 35km M4.0
16 日 山梨県東部	深さ 20km M3.3
27 日 東海道沖	深さ 50km M3.2

南関東における M 3.5 の地震は、

6 日 茨城県南部	深さ 50km M4.0
9 日 東京湾	深さ 24km M4.2
19 日 茨城県北部	深さ 63km M3.5

その他の地域で目立った地震は、なかった。

2004 年 9 月 5 日の東海道沖の地震 (M7.4) の M4 以上の余震は発生しなかった。

6 頁 東海地域の地震活動指数

固着域：地殻内の中期が高い(8)他は、ほぼ平常(3～6)。

愛知県：フィリピン海プレート内中期はやや低い(1)が、短期は回復してほぼ平常(5)。

地殻内の短期・中期はともに平常(4)。

浜名湖：西側では短期・中期ともにやや低め(2)。東側では短期・中期ともにやや低い (2～1)。

駿河湾：短期・中期ともにほぼ平常 (5～4)。

7～9 頁 固着域

(1997/01/01～2006/07/26)

[地殻内]

M1.1 以上の地震活動 (クラスタ除去、地震回数積算図の傾き) を見ると、2005 年後半ごろから地震活動がやや活発な様子が見える。

M2.0 以上で見ても同様に、2005 年ごろから地震活動がやや活発。

(1987/09/01～2006/07/26)

[長期、地殻内・フィリピン海プレート内]

M3.0 以上の地震活動 (地震回数積算図の傾き) を見ると、地殻内では 2000 年ごろから、フィリピン海プレート内では 2003 年後半ごろから地震活動が低調である。

地殻内は 2006 年 6 月終わりに M3.2 と M3.1 の地震が発生し、回復傾向。

固着域周辺 (地殻内) の地震活動推移

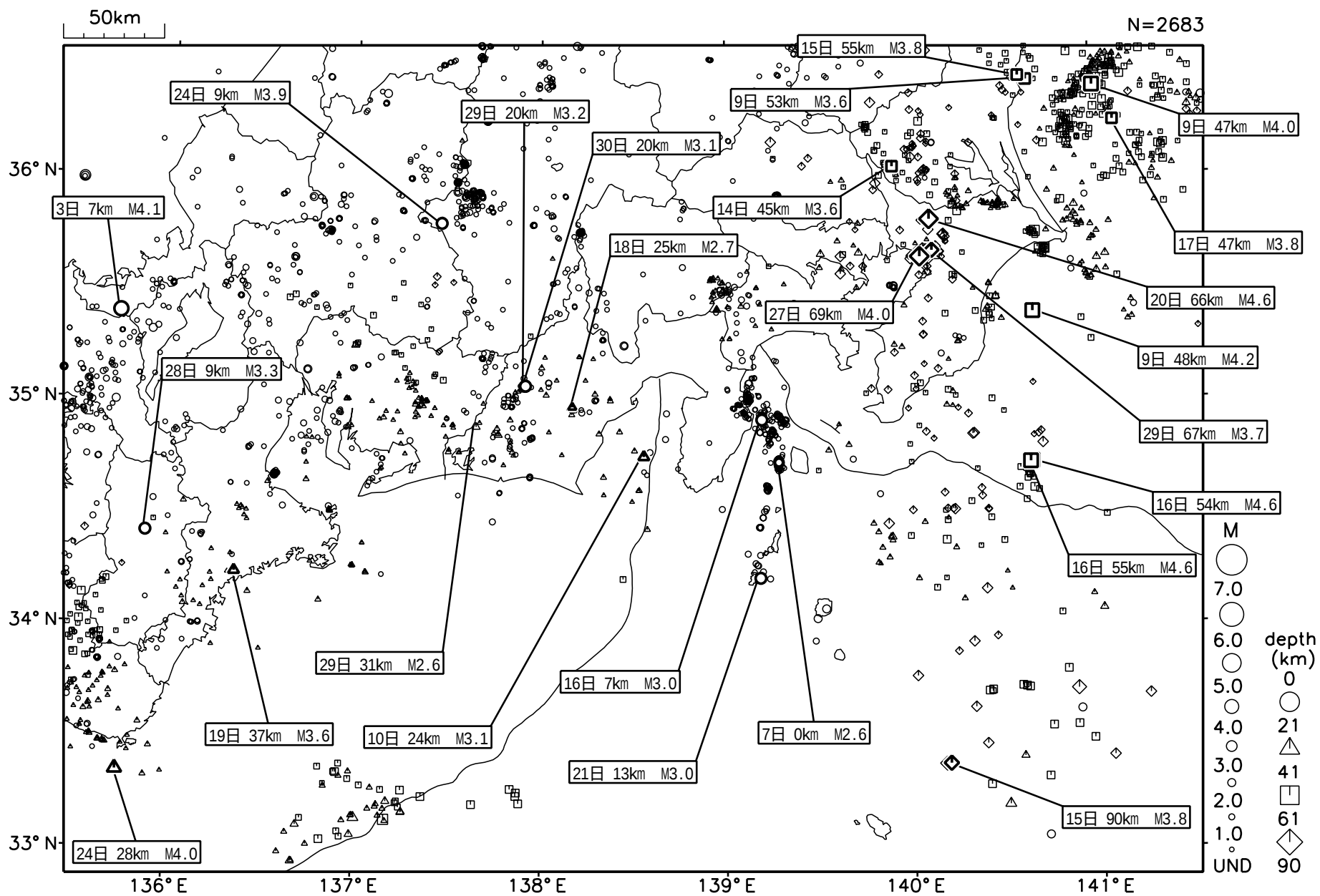
固着域では、長期的スロースリップ中は地震活動が比較的静穏であったが、スロースリップが停滞して以降はやや活発な状況になっている。

10 頁 浜名湖（1995/01/01～2006/07/26 M 1.1：フィリピン海プレート内）

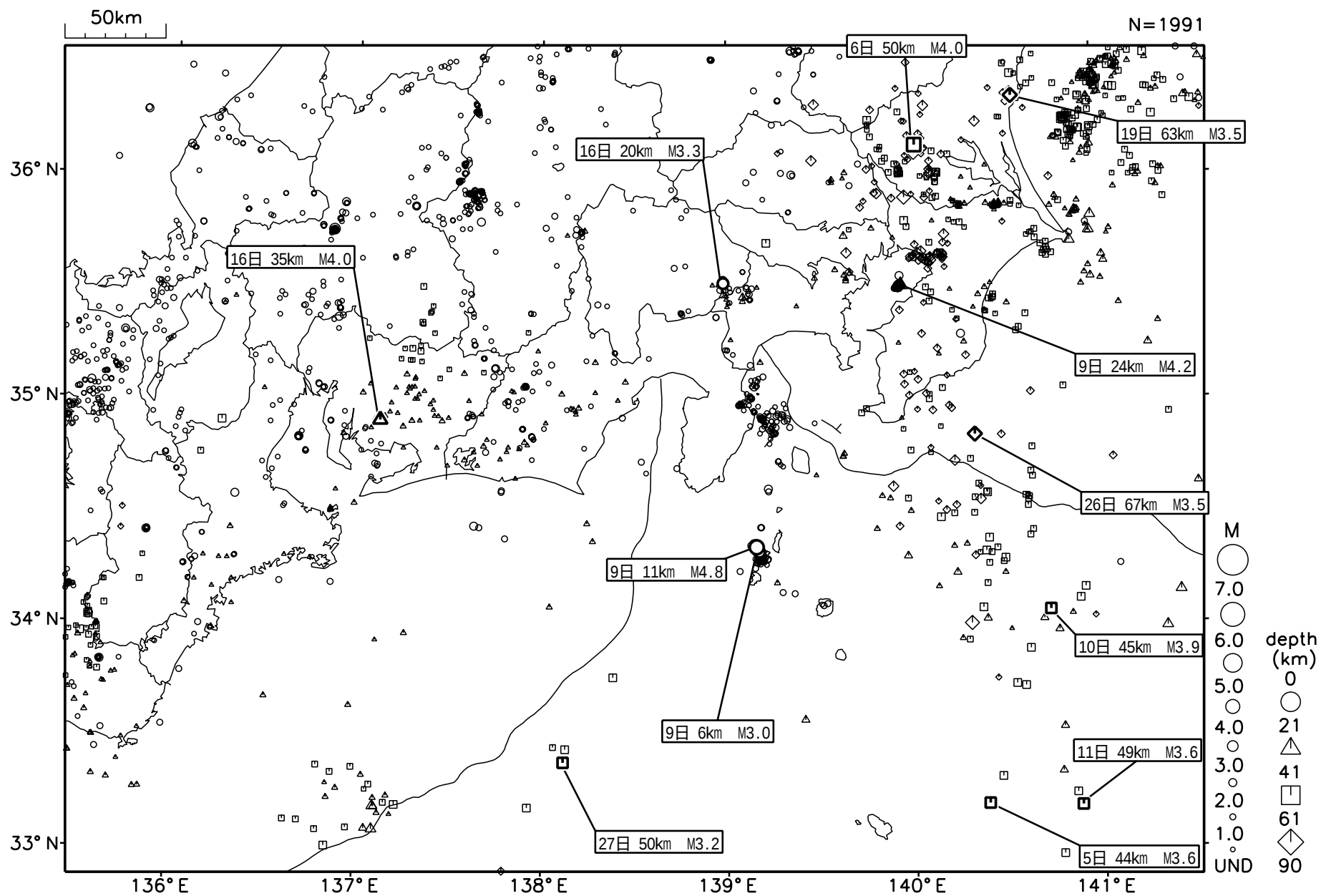
〔東側〕 2000 年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下した状態が継続している。最近では 2003 年 6 月 5 日 M3.9、2004 年 5 月 6 日 M2.8 が目立つ。

〔西側〕 特段の変化なし。

東海・南関東地域の地震活動 2006年6月



東海・南関東地域の地震活動 2006年7月(1日～27日)



気象庁作成

東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2006年7月26日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	6	4	4	5	2	1	2	5
短期地震回数 (平均)	10 (6.34)	6 (5.90)	3 (4.49)	14 (12.63)	0 (2.38)	1 (5.91)	1 (3.53)	7 (6.11)
中期活動指数	8	3	4	1	2	0	1	4
中期地震回数 (平均)	31 (19.03)	14 (17.69)	14 (13.46)	27 (37.90)	2 (4.76)	4 (11.82)	2 (7.06)	12 (12.22)

* Mしきい値：

M $\geq$ 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ ：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ ：駿河湾

* 対象期間：

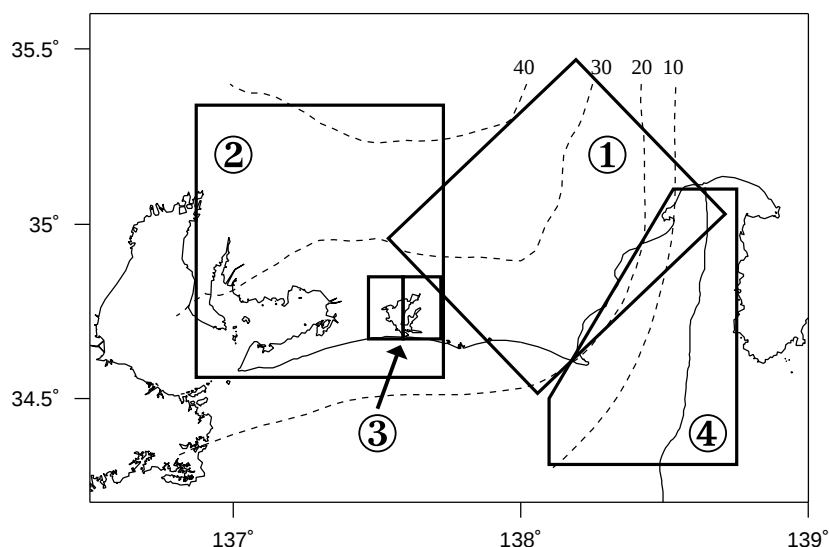
短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年－2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年－2000年（3年間）：浜名湖

1991年－2000年（10年間）：駿河湾

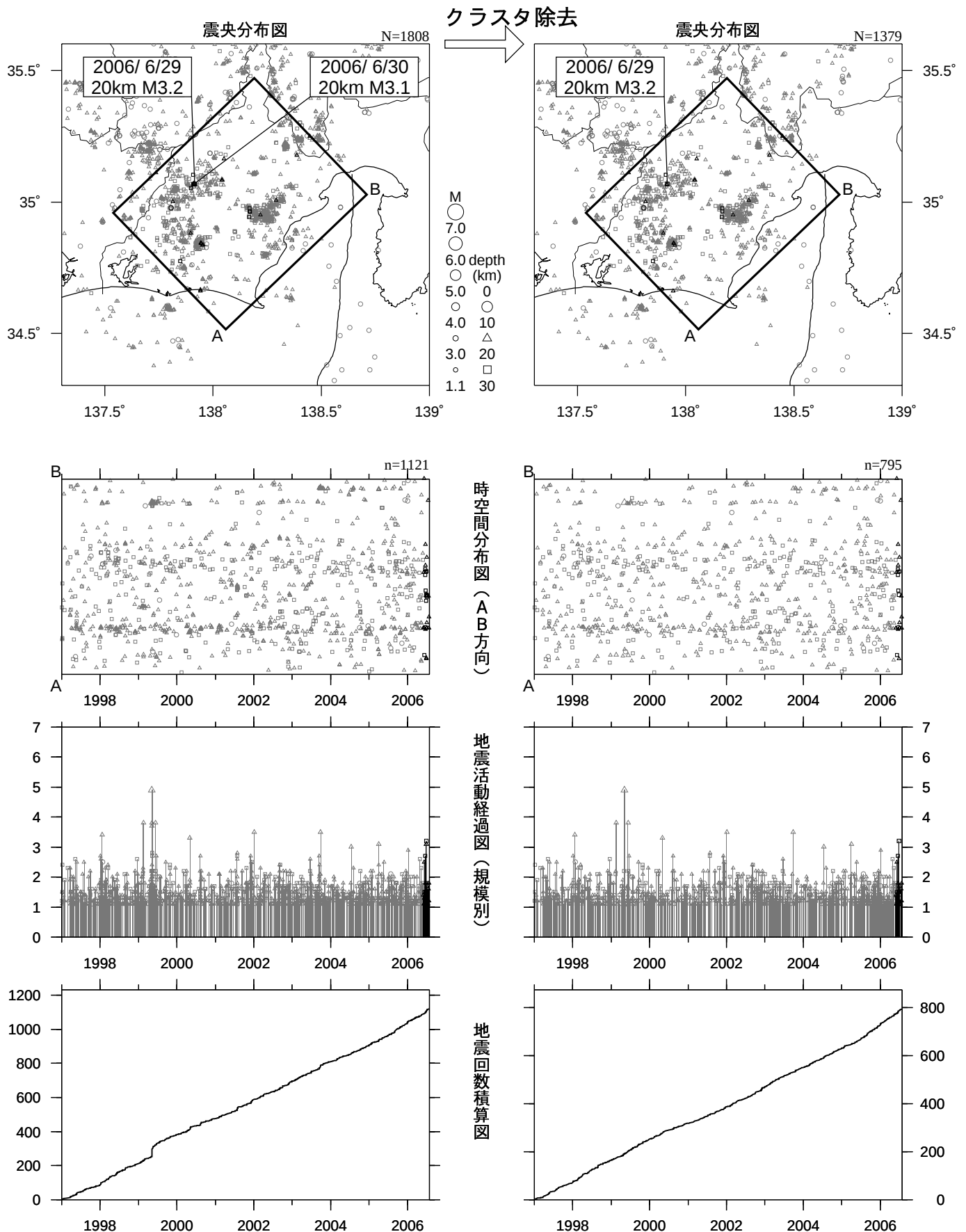


* プレート境界の等深線を波線で示す。

地震回数の指数化

指数	確率 (%)	地震数
8	1	多
7	4	↑
6	10	
5	15	
4	40	平常
3	15	↓
2	10	
1	4	
0	1	少

固着域（地殻内） 1997/ 1/ 1~2006/ 7/ 26 M ≥ 1.1

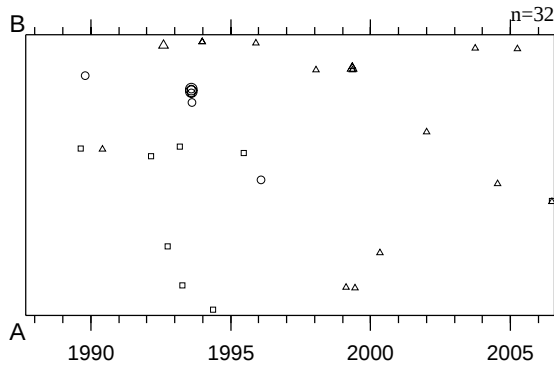
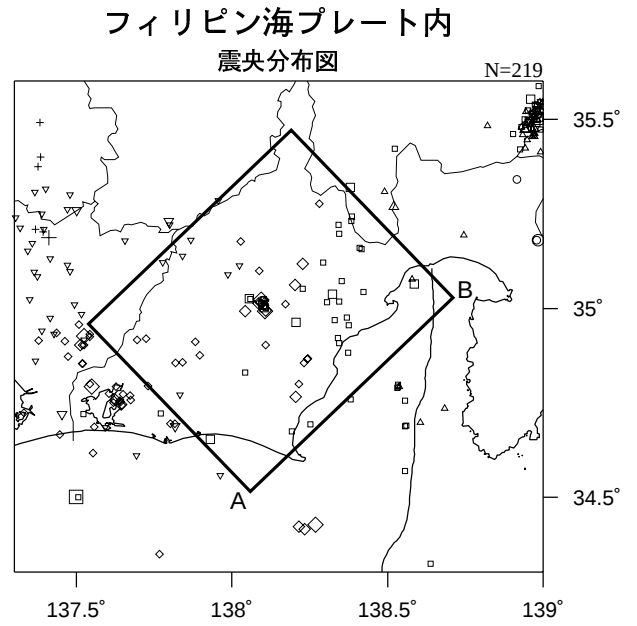
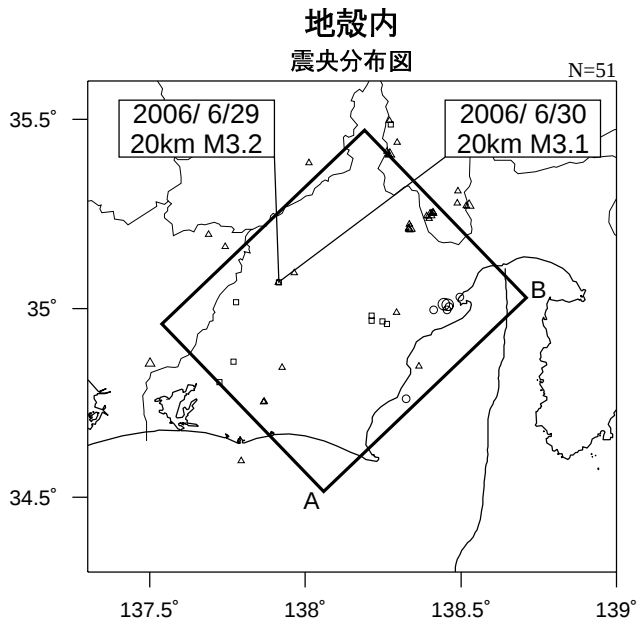


* 吹き出しは最近60日以内、M≥3.0
最近60日以内の地震を濃く表示

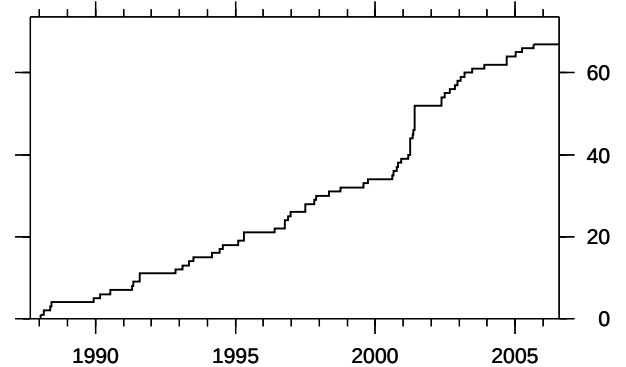
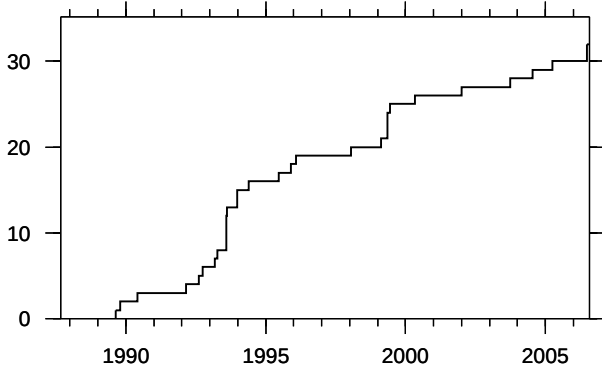
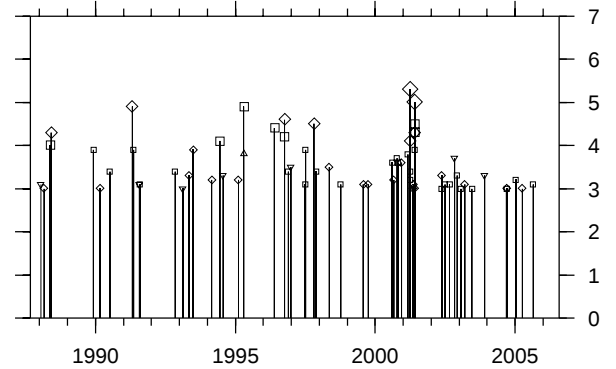
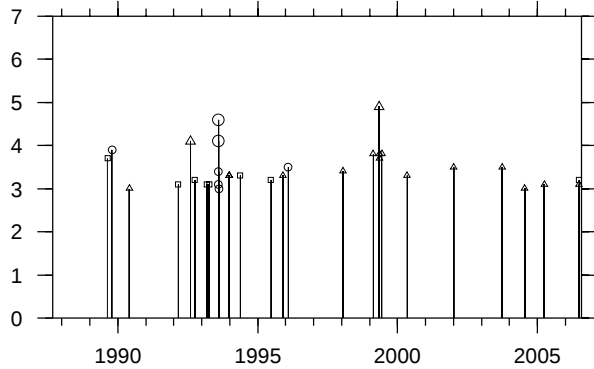
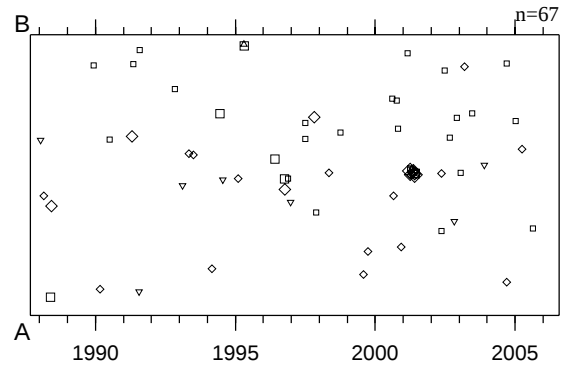
2005年後半ごろから地震活動がやや活発な様子が見える（クラスタ除去、地震回数積算図の傾き）。
気象庁作成

固着域（長期）

1987/ 9/ 1~2006/ 7/ 26 M ≥ 3.0



時空間分布図（A B方向）



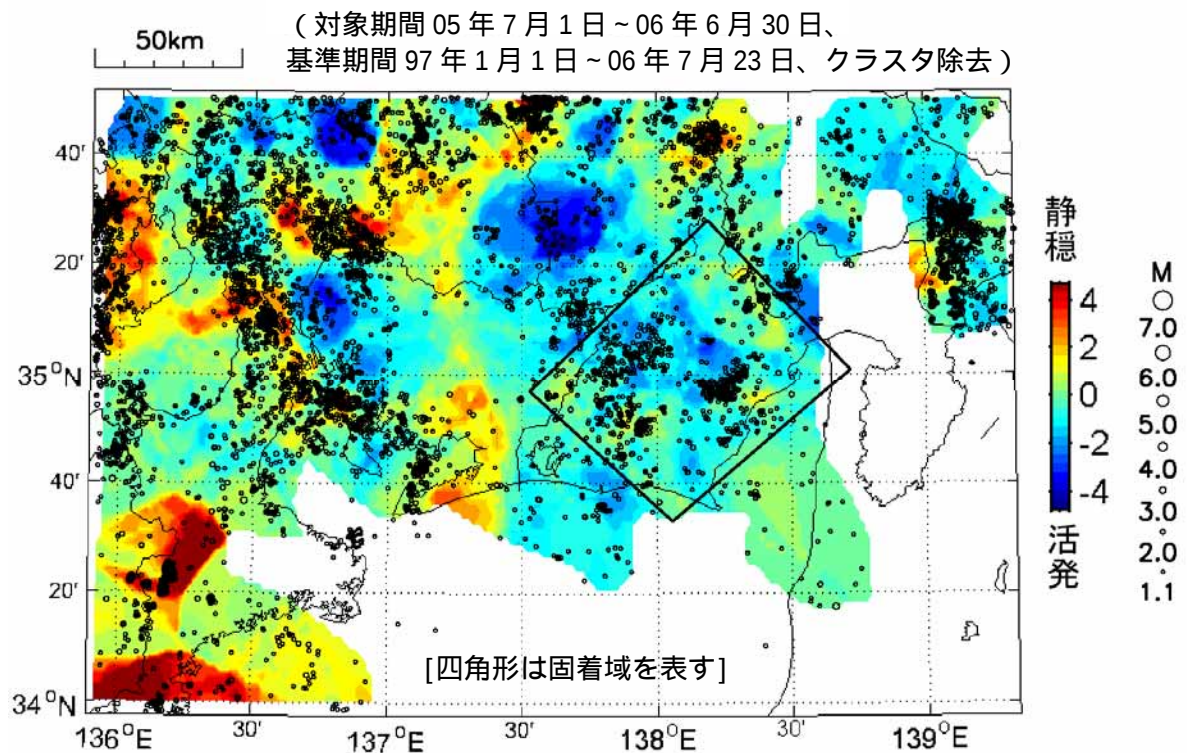
* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0

地殻内では2000年ごろから、フィリピン海プレート内では2003年後半ごろから地震活動が低調である。
地殻内は2006年 6 月終わりにM3.2とM3.1の地震が発生し、回復傾向。

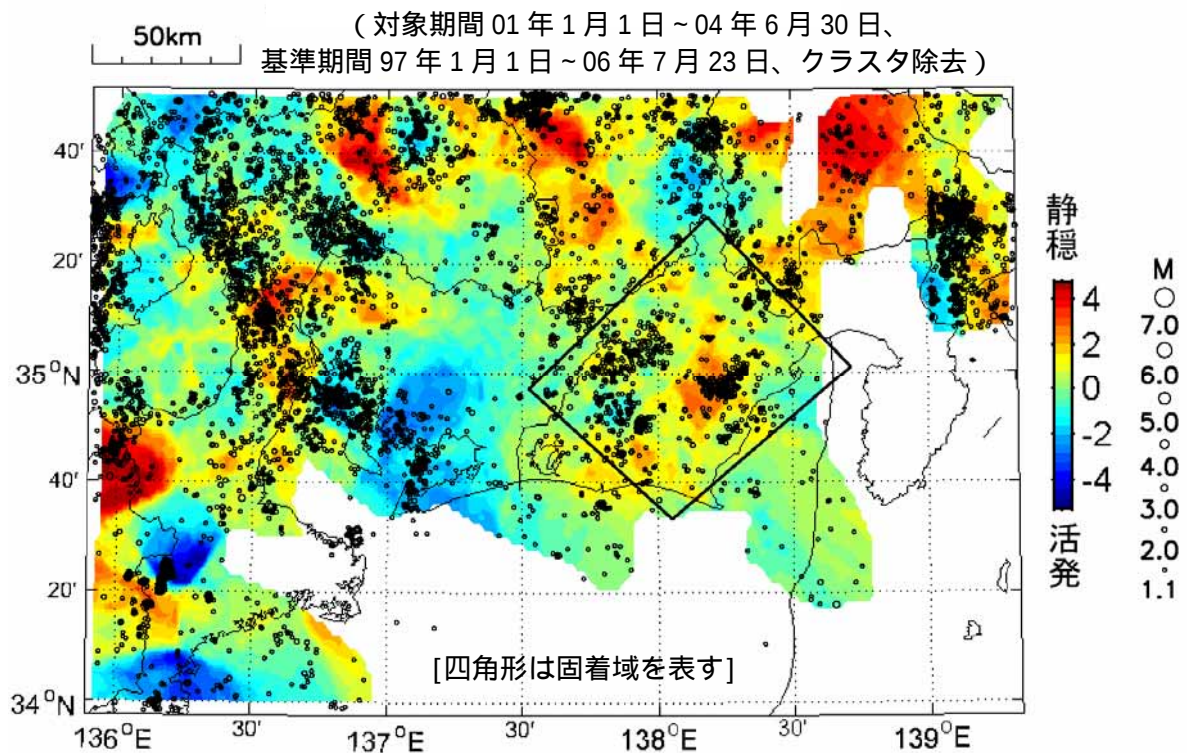
気象庁作成

固着域周辺（地殻内）の地震活動推移（M1.1 以上）

長期的スロースリップ停滞後の地震活動度と震央分布図（M1.1 以上、地殻内のみ）



長期的スロースリップ進行中の地震活動度と震央分布図（M1.1 以上、地殻内のみ）

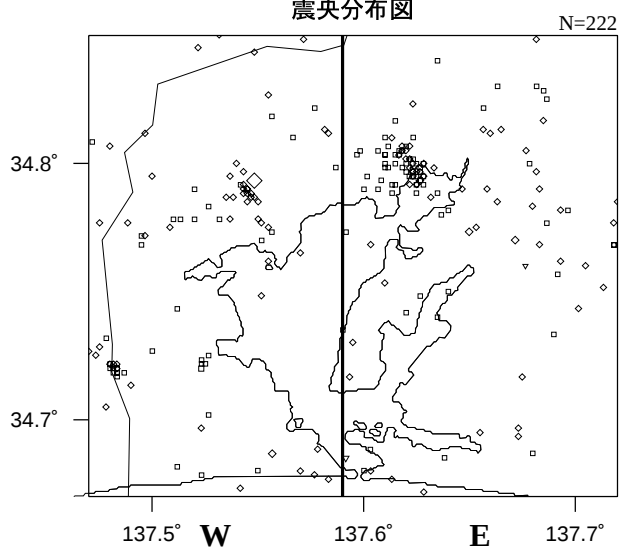


固着域では、長期的スロースリップ中は M1.1 以上の地震活動が比較的静穏であったが、スロースリップが停滞して以降はやや活発な状況になっている。

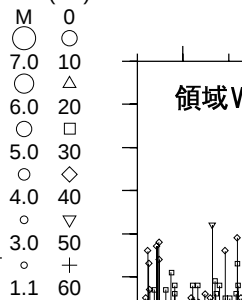
浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2006/ 7/26 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ

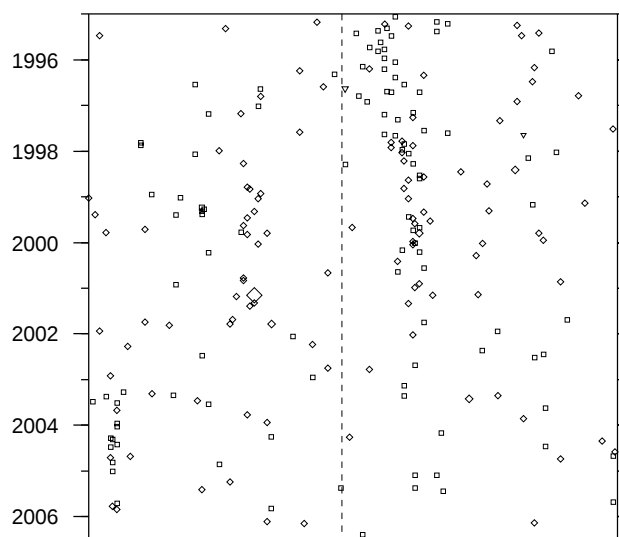
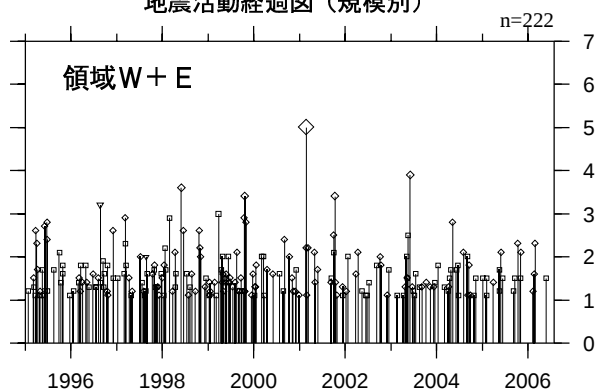
震央分布図



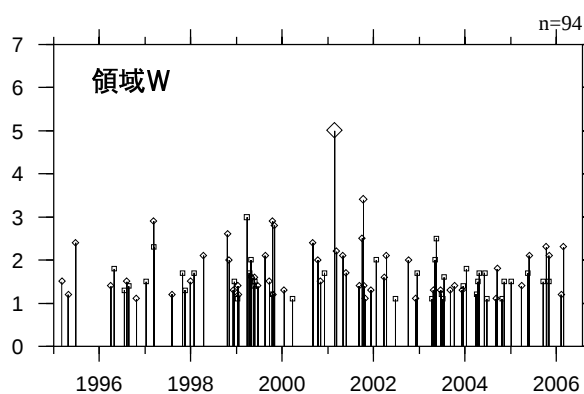
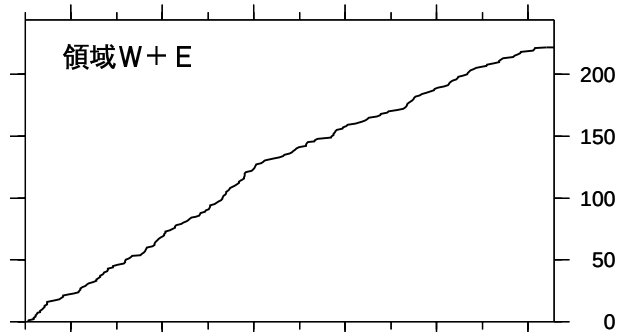
depth
(km)



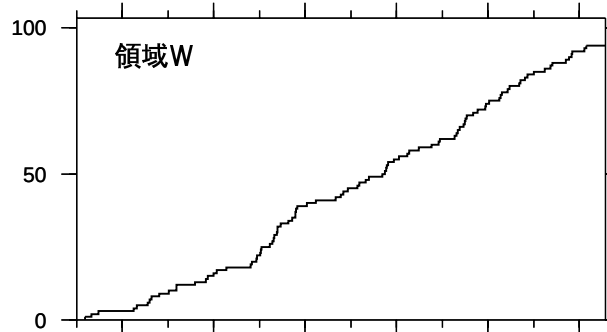
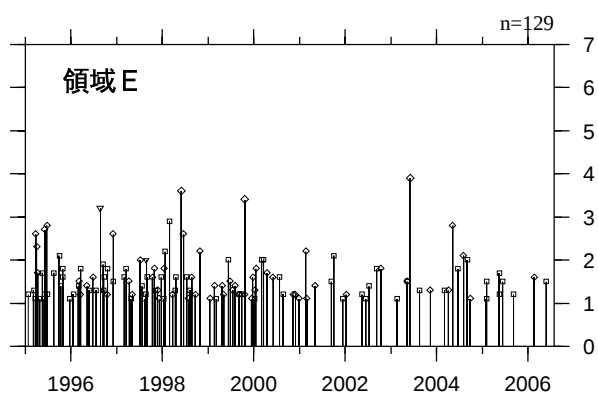
* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0
地震活動経過図（規模別）



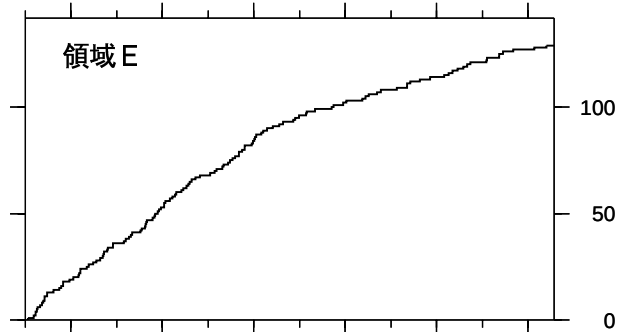
地震回数積算図



地震活動経過図（規模別）



地震回数積算図



気象庁作成 2000年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下した状態が続いている。